

～「旅する対話」高円寺編～  
あれもこれも、聞きたい、話したい、日本とチェチェン  
**「わたしたちの戦争と平和」**

---

田口ランディ（作家）×ザーラ・イマーエワ（映像作家）×林克明（ジャーナリスト）

2013年3月31日（日） 午後3時開始

**高円寺コモンズ セミナールーム**

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 3-66-3（高円寺ストリート 7 番街）

参加費：予約 1000 円 当日 1500 円

主催：「旅する対話」実行委員会

協力：チェチェンの子どもたち日本委員会

---

チェチェンの戦火を越えて、亡命の地で、たくましく、たおやかに生きるひとりの女性、**ザーラ・イマーエワさん**が、日本へと「対話の旅」にやってきます。このザーラがとにかくすごい。

戦争難民を引き連れて、真冬のコーカサスの山をチェチェンからグルジアへ、たくさんの命を救った。そして、アゼルバイジャンに亡命すると、難民の子どもたちばかりか、さまざまな民族の心身に傷を持つ子どもたちと遊んだり、歌ったり、踊ったりしながら、独自のアートセラピーを生み出した。

戦火を越えて、生きる力を育む人。

ザーラが日本へと「対話の旅」にやってきた理由。それは、彼女にとって、日本は、戦争を放棄した「希望の国」。彼女の目指す未来がここにあると信じているからなのです。

そして、**田口ランディさん**。

ザーラにとっての「希望の国」日本に生きる**ランディさん**は、ほんとうの戦争を知っているザーラと話してみたくなったのです。戦争のこと、平和のこと、傷ついた子どもたちの生きる力を育むアートセラピーのこと。

たくさん聞きたいことがあります。話したいことがあります。「希望の国」日本に生きる者としての、日々の思い、明日のこと。

チェチェンに何度も足を運んだ日本人ジャーナリスト**林克明さん**が、「希望の国」の住人が体験したチェチェン戦争を語ってくれます。

わたしたち、それぞれの、戦争と平和。

戦争を描き、生きる力を描くザーラ・イマーエワさんの映像作品を見て、みんなで語り合ううちに、戦争のこと、平和のこと、生きることの、いろいろなヒントや問いや展望が開けてくるかもしれません。

「旅する対話」高円寺編への、多くの皆様のご来場をお待ちしています！

●対話する人たちのプロフィール



**ザラ・イマーエワ** チェチェン共和国・元外務省報道官、元文化省映画担当次官／戦争難民／ジャーナリスト／映像作家  
国際アートセラピーセンターDiDi主宰。

1961年チェチェンに生まれる。現在アゼルバイジャンのバクーに亡命中。2003年にアムネスティ・インターナショナル日本主催のスピーキングツアーで、チェチェン戦争とロシアによる人権侵害の実態を日本各地で講演。映像作品に『子どもの物語にあらず』『春になったら』『私たちのDiDi』等、著書に『旅する対話 ディアスポラ・戦争・再生』（姜信子との共著 春風社）

**田口ランディ** 作家。

1959年東京生まれ。2000年6月、幻冬舎より長編小説「コンセント」を出版し小説家としてデビュー。その後「アンテナ」「モザイク」を発表。初期の長編は三部作と呼ばれ、海外でも高い評価を得ており「コンセント」は英語、イタリア語、中国語、インドネシア語、ルーマニア語など多くの言語で翻訳されている。著書多数。近著に『サンカーラ』（新潮社）

**林克明** ジャーナリスト。

1960年長野市生まれ。著書に『カフカスの小さな国〜チェチェン戦争独立運動始末』（小学館 1997）、『プーチン政権の間〜チェチェン戦争・独裁・要人暗殺』（高文研 2006）、写真集『チェチェン 屈せざる人びと』（岩波書店 2004）、共著に『チェチェンで何が起きているのか』（高文研 2004）等がある。

● お問い合わせ：「旅する対話」実行委員会 [wildfrances@gmail.com](mailto:wildfrances@gmail.com)  
ご予約の方は、お名前、電話番号を明記のうえ、メールにてお申し込みください。

(高円寺 commons)

